

# ぶらり 諏訪塾 棟梁は藩桶職の次男

茅野駅より市役所へ向かい5分ほど歩くと左側に白岩山惣持院があり、参道に立つとその先に白岩観音堂が見えます。高島藩主四代忠虎の命により仏法寺境内の建物を譲り受け寺院と観音堂が移されたと伝わります。

安永3(1774)年、当時31歳の初代立川和四郎富棟が約70年経過した観音堂再建の依頼を請け、契約から約2年後の天明6(1786)年11月に天人の欄間彫刻を取り付け完成します。2度の江戸修行を終えた高島藩桶職の次男富棟は宮大工として第一作となる観音堂に己の持てる技を駆使し造営に取り組み、彩色せぬ清楚なお

堂を再建しました。

このお堂は高い技術が必要とされる三重葺垂木で屋根の四隅が扇状になっています。「宮大工は垂木で魅せる」といわれ、完成後垂木が乱れてしまうことを「垂木が暴れる」と言い、宮大工として力不足であることを意味したそうです。

お堂正面向拝柱は柱の角を加工した「几帳面取り」で真面目な人に対して使う几帳面の語源です。彫刻は厚みのある材に「菊・龍・獅子・象・波」堂内欄間は彩色された「天人・格天井は線彫りの「雨龍」とし水を司る神獣の雨龍がお堂を火災から守っています。

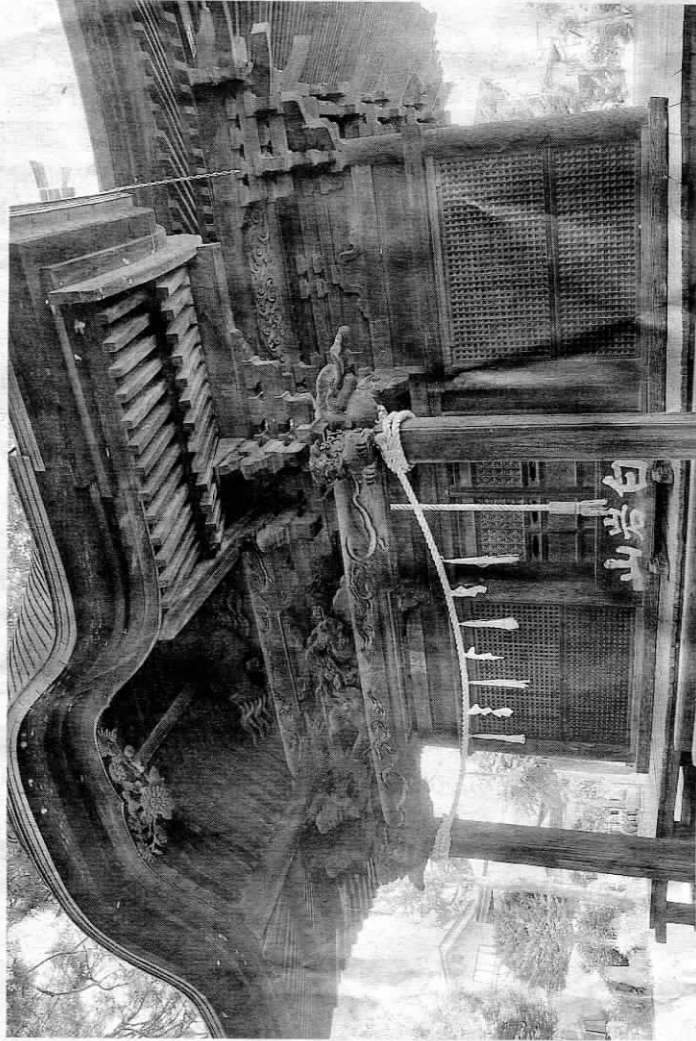
富棟は素木と木目と魅せる建築



に終始し、一貫してこのように無い方向性を持ち続け、一家を成し、社寺にその名を残す立川流宮大工一門となり、その第一歩が白岩観音堂で平成元年県道の指定を請けました。

## 二 随時掲載

詳しい場所などの問い合わせは諏訪塾事務局(電話070・833・23・2107)へ。



初代立川和四郎富棟が造営した白岩観音堂

塚原・白岩観音

- ぶらり諏訪塾の冊子は  
・諏訪市観光案内所  
(JRT 諏訪駅内)
- ・れすところん割烹いすぢ屋  
(諏訪市諏訪)
- ・書店「言事堂」  
(諏訪市末広)
- ・すわ大書情報センター  
(諏訪市博物館内)
- ・諏訪書店(通販のみ)  
070・09997
- ・柏屋カゴエ&キヤウジー  
(諏訪市中央神宮寺)  
で販売中です。

今回の筆者



涌井みち子さん

立川流建築彫刻研究者でスポーツインストラクターとしても活動しています